根岸小

自分のこととして課題解決する子の育成

～見通しと振り返りを大切にした授業を通して～

（２年計画の２年次）

校長　　亀谷　孝子

１　研究主題について

本校では、教育目標である「かしこく　やさしく　たくましく」の具現化のために、主題「自分のこととして課題解決する子の育成～『わくわく』『どきどき』する授業の工夫を通して～」を掲げ、研究を進めてきた。昨年度は、授業の充実を図るため、継続的に問いの意識を喚起させるような学習活動を工夫し、ブロックごとに研究授業を行った。その結果、課題を理解して学習に取り組んだり、理由や根拠を述べながら交流したりすることができるようになってきた。しかし、児童の実態として、基礎的・基本的な力が定着していないことにより、自分の考えに自信をもてないことや、「わかった・できた・身についた」という実感をもてないことが課題となった。学力諸検査等においても、全学年、思考・判断・表現よりも知識・技能が低いという結果が出ている。また、主体的に学習に取り組む態度も十分とは言えない結果であった。

そこで、今年度は、昨年度までの研究を踏まえながら、見通しと振り返りを大切にした授業を通して、学習における基礎的・基本的な力を習得させ、意欲の向上を図っていきたいと考えた。教師が児童に身に付けさせたい力を明確にし、授業の導入においては、課題提示や発問・指示の工夫をすることで、児童に既習事項を基に解決の手がかりを見つけ出させ、見通しを共有させながら、「できそうだ」「解決したい」という意欲をもたせ、主体的・対話的に課題解決できるようにさせたい。さらに、授業の振り返りにおいては、できるようになったことや身に付いたことを確認する手立てや場を工夫する。課題解決することを通して知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力を培うことで、「わかった・できた・身についた」を実感させたい。このように、見通しと振り返りを大切にすることで、児童は安心感や自信をもち、「自分のこととして課題解決する子の育成」に迫ることができると考える。

今年度の学校目標は「根っこを鍛える子～学習・生活の基礎の定着～」である。学習の根っことして、分かる授業を目指し、学力全体の底上げをしていきたい。

２　研究のねらい

安心感や自信をもって、自分のこととして課題解決する子を育成するために、見通しと振り返りを大切にした授業が効果的であることを、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

(1) 見通しをもたせる場面では、既習と未習のずれ等から問いをもたせ、めあてを明確にするとともに、解決の見通しを共有することで、主体的に取り組むことができると考える。

(2) 振り返りの場面ではできるようになったことや身に付いたことを確認する手立てや場を工夫することで、学習内容の習得を実感することができると考える。

４　研究内容

(1) 分かる授業の実践

ア　意欲を向上させ、基礎的・基本的な力を習得させる授業づくり

イ　特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり

(2) 言語活動能力と基礎学力の定着

ア　教材「ことばのきまり」の継続指導

イ　読書

ウ　月末の小テスト

エ　家庭学習（自学のすすめ）

５　研究の経過

(1) 研究仮設に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・講師・成果・授業の概要　等
６	１６	第１回授業研究（６学年）「逆数」　授業者　教諭　石橋　睦子
１１	１０	第２回授業研究（１学年）「かたちづくり」　授業者　教諭　大浦　まどか
１２	８	第３回授業研究（３学年）「分数」　授業者　教諭　岩城　裕美子

(2) 一般研修

月	日	内容・講師・概要等
６	３０	道徳科に関しての研修　本校教諭　佐藤　直子
８	２０	ソーシャルスキルトレーニングの研修　本校通級指導教室 教諭　中村　久美子 教諭　宮崎　千登理 教諭　中岫　美奈子
１０	１３	１人１台端末を活用した授業についての研修　（要請訪問） 八戸市教育委員会　教育指導課　主任指導主事　福田秀貴先生
１	１１	カリキュラム・マネジメントの研修　本校校長　亀谷　孝子
２	９	中央研修報告　カリキュラム・マネジメント開発研修 本校教諭　大嶋　和明

６　研究の成果

(1) 既習と未習のずれ等から問いをもたせ、めあてを明確にし、解決の見通しを共有することで、主体的に取り組むことができるようになってきた。

(2) 授業の流れをシステム化することで、児童が見通しをもって取り組み、安心して活動することができるようになった。

(3) 選択肢や文章など、学年に応じた振り返りを行い、できるようになったことを確認することができた。

(4) 授業の中で、練習問題等に取り組ませる場を工夫することで、学習内容の習得を実感させることができた。

７　研究の課題

(1) 思考のずれを毎時間設定することが難しかったため、単元全体を見通し、問いをもたせる場を計画的に設定していきたい。

(2) 振り返りの表現の仕方に個人差が見られたため、観点を明確にし、校内で統一して取り組ませていきたい。

（記入者　岩城　裕美子）